

編集後記

◇『国際経営フォーラム』第十号をお届けします。多くの方々のご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

◇一九九九年に入って為替市場は新しい局面を迎えることとなった。為替相場の安定という目標は一致しているが、欧州は単一通貨ユーロという通貨改革によってドルに対抗する通貨を作り、為替相場の主導を目指している。米国は市場の論理を尊重し、経済政策強調に比重を置き、ドル基軸を守ろうとしている。しかし、日本は政治主導で財政による景気対策を続けることによって、通貨の安定を進めようとしている。それぞれ独自の立場から通貨の安定を目指している。

◇究極の安定策は固定相場制であり、現在の変動制の中でそれに近いのは目標相場圏となる。しかし、経済の具体的な条件の変化が伴わなければ効果は一時的なものとなってしまふ。相場は経済の基礎的条件を反映する。目標圏を設定すれば逆

に当局の覚悟を試す投機を招くことになる。

◇基軸通貨としてのドルの過去の実績と信用の維持がこのまま可能なのであろうか。ユーロが基軸通貨としての地位を確立することにより、アメリカの財政金融の内在する問題が顕在化し、その結果として世界経済への恐慌の引き金とならないか。アジア圏における通貨の安定化のために円が基軸通貨として機能する必要性を考えてゆくべきではないのか、今後の動きに関心のもたれるところである。

◇ユーロ誕生は、わが国の大蔵省にとり新しい通貨安定を構築する好機であると同時に、円が取り残されかねない重大な岐路に立たされている。

◇今回も経営学部で非常勤講師をつとめられている白井進氏と山本久仁子氏からご寄稿を頂いた。さらに講演をして頂いた坂本昭雄氏にもご協力をして頂いた。

(F)

国際経営フォーラム編集委員

藤田 昌久
大庭 絵里

国際経営フォーラム 第十号 ISSN 0915-8235

発行 一九九九年三月三十一日

(年一回発行) 非売品

編集 国際経営研究所

発行人 七田基弘

発行所 神奈川大学国際経営研究所

〒二五九-二〇五 平塚市土屋二九四六

電話 (〇四六三) 五九-四一一(代表)

FAX (〇四六三) 五八-五六八八

印刷 カサハラ印刷株式会社

〒二五九-二四七 伊勢原市白根四七五-一

◆本誌ご希望の方は、送料実費として切手二七〇円を添えて、右記の国際経営研究所の編集委員宛お申し込みください。在庫切れの節はご容赦ください。

◆本誌掲載記事・論文の一部または全部の転載は、事前に筆者または国際経営研究所から直接書面による許可を得た場合に限られます。